CONTENTS

COMBAT

2017.Dec.
No.501

12

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
Toru Yokota
©WORLD PHOTO PRESS 2017
※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。

010 **AK【巻頭特集】世界で最も使われし小銃**

012 The World with AK
報道カメラマン横田徹が見た、世界のAK

020 「AKはぼくにとって『良き相棒』でした」
～AKを手に戦った傭兵、高部正樹～

024 Column1 世界のミリタリーとAK

026 元海兵隊スカウトスナイパーが語るAK

034 Column2 米のAK専門カスタムショップ

036 The History of AK & Kalashnikov
世界で最も使われし突撃銃と、開発者カラシニコフ

042 AKたちとの邂逅録
Shooting Impression of AK

048 サバゲ三等兵　特別編　お邪魔しました　AK専門店！

052 AK & ロシア装備でオーチン・ハラショー！

054 The World of Little Armory 番外編
東城咲耶子さんがAK好きと聞きまして。

172 こちらが列の最後尾！リターンズ
AKとハリウッドの星々

174 突撃!!ぴっちょりーな☆　番外編
ぴっちょりーな loves AK!!

【トイガン】

004 Front Line Special
新登場！　東京マルイ・次世代電動ガンAK47

106 **トイガンニュース**
106 東京マルイ　M&P 9L <パフォーマンスセンター・ポーテッド>
108 東京マルイ　USP
109 東京マルイ　電動ブローバック・ハイキャパ4.3フルオート
110 マルゼン　ショットガンM1100ブラックVer.&ウッドストックVer.
111 CAW　MGCリバイバルM11
112 タナカ　M92Fエボリューション HP《セラコート・ブラック・フィニッシュ》
113 タナカ　S&W M38ボディガード《エアウエイトJポリスHW》

【ミリタリー】

056 BATES
SHOCK FX
●Photos&Text by TOMO HASEGAWA

062 ニッポンの力こぶ

066 オリエントシールド2017

096 The Equipments of the U.S. Force
[現用米軍装備カタログ]
プレート・キャリア特集Part.2
●解説：松原隆 ●撮影：山崎 学

117 Militaria Roundup!
アメリカ海軍フライトジャケット　PART2

070 突撃!!ぴっちょりーな☆

072 NEW GENERATION STYLER
●fujiwara

082 全日本模型ホビーショー2017

086 WESTERN ARMS
LB OPERATOR DOT SIGHT MODEL
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

090 WESTERN ARMS
MEU PISTOL LATE MODEL BATTLE DAMAGE Ver.
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

093 WESTERN ARMS
BERETTA M84FS CBHW
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

114 WANCHER'S STYLE
●織本知之

116 ミリいじ技研

128 PRESENT

148 PROJECT NINJA
●morizo(東京装備BAKA)

154 兵装嗜癖
●by fujiwara

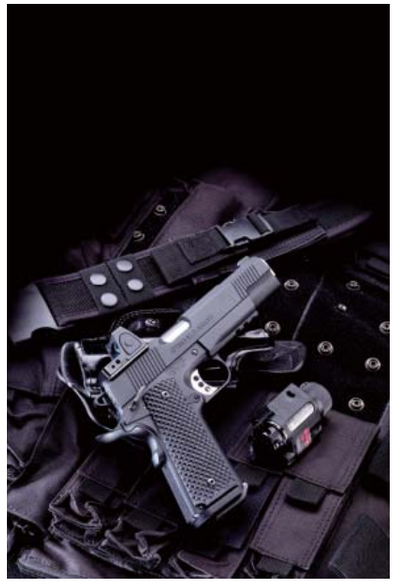
156 DJちゅうの妄想雑記ノート

196 Goods & Accessory

200 中田商店グッズ

202 S&Grafグッズ

129 GAME OVER THE TOP
132 US SHOOTING LIFE 特別編
134 読んで覚える
TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ 特別編
136 アラフォーズ!
138 サバゲ三等兵APS部!
140 トイガンズ・ジャンクション
171 関刃物まつり&関アウトドアーズナイフショー
176 編集長日誌
177 バックナンバーリスト
178 ヘンリー少年のミリ雑講義
180 レア・ミリタリー・コレクション
182 A STITCH IN TIME
183 爆裂祭
184 狩野健一郎のシネマ放浪記
185 狩野健一郎の新作DVD紹介
186 蛙のゆびさき
188 戦車兵通信　WORLD OF TANKS
190 コンバットマガジン・インフォメーション・センター
191 読者プレゼント応募方法
192 編集後記



COMBAT FRONT LINE Special

[AirsoftGun 特別編]

新登場 東京マルイ 次世代電動ガン AK47

●Text & Photos：小林 拓　撮影協力：首都圏外郭放水路（協力：国土交通省 江戸川河川事務所）
㊐東京マルイ TEL03-3605-3312　www.tokyo-marui.co.jp

ファンが待ち望んだ、東側を代表するアサルトライフルAK47が、次世代電動ガンでいよいよ東京マルイから登場!!

次世代電動ガン登場10年目にして生まれる節目のモデル

次世代電動ガンの第1弾となる「AK74MN」が登場したのは2007年のことだった。

あれから10年、節目となる年にニューモデルとして「AK47」が発表されるとは、誰が想像しただろう。トイガンユーザーの間では発売が待たれていた機種だけに、今回の全日本模型ホビーショーでの発表はかなりのセンセーショナルとなったのは間違いない。初の次世代電動ガン登場から10年が経ってようやくのモデルアップ。根強い人気を持つモデルなので、もっと早い段階で製品化されるのではと思っていたが、10年という節目を狙って、合わせて製品化したのであれば、さすが東京マルイといったところだろう。

◆　◆　◆

シンプルで耐久性に優れたAKシリーズは世界中で最も製造されたアサルトライフルとして知られている。その数はオリジナル、コピーモデルを含めると1億～数億挺ともいわれている。理由としては、まず第一に構造のシンプルさがあるが、それに加えて製造コストが安く済むという点もある。構造がシンプルなのでパーツの点数が少なく、結果として製造コストを減らせるのだ。

シンプルな構造というのは、製造コストを抑えられる反面、コピーしやすく、かなり粗悪なモノも出回っていると聞く。カタチこそ同じAKでも、製造国が違うと、作動性や命中精度に差が出てしまう。とはいえ、そういった多くのコピーモデルが出回ったこともあって、AKシリーズは全世界的に有名なアサルトライフルとなったのだ。

ディテールの徹底的な作り込みが、リアリティを生んだ

今回、次世代電動ガンとしてAK47を製品化するに辺り、東京マルイではさまざまな資料を再検討し、さらには無可動実銃を入手して、その細部まで忠実に再現した。同じ機種をモデルアップしているので、見た目こそスタンダード電動ガンと変わらないように見えるが、全くの別モノに生まれ変わっている。

次世代電動ガンの代名詞ともいえるリコイルショックはダミーボルトと連動しており、実銃同様の激しいリコイルアクションを楽しむことが出来る。さらに初搭載された「オートストップ機構」により、マガジンが空になるとボルトハンドルがオープンボルトの位置で停止する。ボルトストップを解除するには、ロードされたマガジンを装着し、ボルトを引き下げてコッキングアクションを行なうことで解除出来る。モチロン、マガジンに内蔵されたオープンストップキャンセルスイッチを解除すれば、オートストップ機構をオフにして射撃を楽しめるなど至れり尽くせりだ。さらに、メカBOXも各部を見直し、リファインされている。

次世代AK47用に新規設計された90連マガジンは緩いカーブを描いており、AKシリーズの特徴を良く再現してい

特集

AK

Avtomat Kalashnikova

アフトマート・カラシニコバ。略してAK。
戦車兵だったミハイル・カラシニコフが設計した
AK-47に始まる、ソ連生まれのライフルの一群は、
登場以来、70年以上にわたり、世界中で使われてきた。
各国で作られたクローンも含め、
作られてきた数は、優に億を越える。
第2次世界大戦後の数々の争いに立ち会ってきた
唯一無二の銃。そんなAKと周辺の景色。
ほんの一端をご紹介しよう。

●Photo：横田 徹

M.カラシニコフが生んだ小銃を通してみる「世界」

Interview:
高部正樹
Masaki Takabe

AKは、ぼくにとって『良き相棒』でした

AKを手に戦った傭兵

The memoir of the mercenary, who took AK in his arms

自衛官から傭兵へと身を転じ、世界各国で戦った男、高部正樹。
彼が傭兵として最も使ってきたライフルがAKだった。
シンプルな構造故の丈夫さや、信頼性の高さ。
「相棒」を手に、戦地を巡った男が振り返る、リアルなAK像。

●Construct：狩野健一郎　●Portrait Photos：小林 拓

――傭兵時代に使っていたのはほとんどAKだったと伺っています。

そうですね、95%はAK、特にAKMを使っていました。武器庫にあれば必ずAKを選びました。(他の銃の)選択肢があるなしは関係なかったです。例えば、ミャンマーでカレン民族解放軍に参加したときだったら、SKSとか、M16とか、ビルマコピーのG3とかもありました。でも、僕らとしてはAKが一番信用も出来るし、使い慣れてるということで選びました。一度武器商人からAKを買った時もあります。

まれにM16などを使った時もありましたが、たまたまAKが無かったとか、あまりにも状態が酷かったりする場合だけでしたね。

武器庫にあれば必ず AKを選びました 最も信頼出来る ライフルだったんです

――丈夫さや弾丸の手に入り易さなどが、AKが広く使われている理由と言われていますが、実際いかがでしょうか？

最も信頼できるライフルだったと思います。僕らが前線にいて一番怖いのはジャミング、つまり弾が出なくなること。それが少ないということが特別に大事なポイントなんです。命中率なんて多少悪くてもいい。でも、とにかく弾は必ず出て欲しいですから。そうなると、AKを選択することになるんです。

――個体差はあるんですか？

結構あります。製造した国によるものと、経年劣化ですね。一番良かったのはオリジナルのロシア製でしたね。あと、東独製は評判がよかった。現場で一番目にしたAKはエジプト製。アフガニスタンにいた際は、僕はずっとエジプト製を使っていたし、クロアチアに行った時もエジプト製がありました。一番ひどかったのは中国製ですね。当たらない確率があまりにも高かったんです。

――実際の戦場ではAKの性能の差が死活問題だったわけですよね？

そう。だから仲間内でもAKについての話はよくしました。あの国のAKはどこがいいとか悪いとか。さっき話に出した東独のAKも、ぼくは実際に手にしたことはなくて、あくまでも噂で「いい」と聞いただけなんです。

――仲間内での情報交換も大事だったんですね。

クロアチアの仲間の話で、記憶に残っているのがあります。ルーマニア製のAKM、フォアグリップが付いてるやつですね。それを「連射で何弾倉か続けて撃つと、バレルがちょっと曲がる」って言ってたんですよ。命中率が極端に落ちる、と。正直、そんなバレルを使っているのは、パキスタン辺りで密造した銃だろ、って思うんですけど、そいつは、ルーマニア製だと言い張るんです。

そもそも戦場で、そんな何弾倉も連射で撃つような状況はまずないと思います。ぼくもそんな経験ありません。でも、そいつは万一のことを考えて、試したんでしょうね。それで、ルーマニア製のAKはダメだ、と。

ただ、ぼくもルーマニア製は嫌いでした。AKは弾倉を入れる際、“前”でカチッと合わせてから入れますよね。僕は確実に行う為、少し大袈裟に前に出してたんです。でもルーマニア製のAKでそれをやると、フォアグリップにマガジンがゴンッて当たっちゃうんです。

あと、旧ユーゴ製のAKには、銃口にライフルグレネード用のサプレッサーが付いているんです。よく使っていた奴に言わせると、そのサプレッサーにライフリングが切ってないらしいんです。そこで銃弾の回転が鈍くなるから、ちょっと命中率が落ちるんだぞ、っていう話でした。未確認情報ですけどね。

――不人気モデルも多かったんですね。

ええ、さっきも言ったように、本当に人気がなかったのが中国製ですね。折り畳みのバヨネット（銃剣）が付いてるんですが「なんでこんな要らないものが付いているんだ」って。「これのおかげで500gは重くなってる」ってみんないうんですよ。でたらめな作りで当たりもしないし、余分なものは付いてるし。他の国のAKを使ってて、中国製のを持つとズシッとくるんです。

あと、AKSなどの折り畳みストックは、総じて人気が無かったです。僕も大嫌いで、ウッドストックのものばかり選んでいました。痛いんです。エンドが面じゃなくてU字じゃないですか。反動がそこに集中しちゃうんですね。しかも、ストックを伸ばす時にめんどうくさい。あと、ジャングルで引っかかっちゃうんですよね。だから横折りタイプのストックの方が良かったですよね。縦のものは皆嫌いだった。でも、フランス外人部隊の落下傘部隊から来た連中だけは、あれを好んで使っていました。でも、例えばクロアチアでは

Afganistan
アフガニスタン

傭兵として最初に赴いた地、アフガン。

少年兵もAKを手に戦っていました。
難民の子どもが多いという話でしたね。
笑顔の写真もあるのですが、
実は岩場から顔を出したらたちまち
蜂の巣にされるような危険な場所だったりします。

— AKシンドローム —

AK Syndrome

米海兵隊のスカウトスナイパーとして、4回の海外配属を経験するVictor Lopez。
M4のスペシャリストである彼はまた、AKに命を狙われもしてきた。
その彼がAKヴァリアント（カスタムモデル）を手に入れたという。
彼の地でメンテナンスの容易さと丈夫さに感嘆した、“エネミィズ・ウェポン（敵の武器）”。
そんなAKのことを、より深く理解したい、と語るヴィクターに、
各種テストと同時に、AKへのインプレションや思いをインタヴューさせてもらった。

Text & Photos: HIRO SOGA

元海兵隊スナイパーが語るAK

オリエントシールド2017

**1987年に開始され今回で36回目となる日米共同訓練「オリエントシールド」。
日米同盟の強化、相互運用性の向上、実施部隊の練度向上を目指し、毎年実施されている。
そんな中、今回は、ストライカー装甲車が来日した。それも朝鮮有事には、
真っ先に陸戦部隊の中核として派遣される第1ストライカー旅団戦闘団である。
さらに空から日米部隊を守るため、AH-64Dも参加。
これまでにない実戦的な訓練となった。**

写真・文／菊池雅之

（写真大）敵が潜伏する建物を目指す米軍部隊。扉を蹴り破り、なだれ込むように突入していく。各自がそれぞれの位置を警戒し、全周囲に目を向けているのが分かる。
（写真小）来日を果たした第25航空連隊・第1攻撃偵察大隊（ARB）のAH-64D。機関砲の射撃訓練も行なわれた。拠点はアラスカ州にある。

全日本模型ホビーショー 2017

●Photos&Text by Taku

日本国内で開催される大きなホビーショーは3つ。1つ目が「静岡ホビーショー」、2つ目が「東京おもちゃショー」、そして3つ目が毎年9月から10月にかけて開催される「全日本模型ホビーショー」だ。

毎年、この時期に開催されるこのイベントには、国内外の模型やラジコン、塗料、出版など、ホビー全般に関連する多くのメーカー集まる事で知られている。

国内の有名メーカーが一堂に会するとあり、気になるところはたくさんあるが、本誌読者的に注目したいのは東京マルイのブースだろう。スクープや新製品のコーナーでも紹介しているが、今回も目玉となるモデルが続々と発表された。次世代電動ガンの最新作AK47にはじまり、ハンドガンではM&P 9LやUSP、電ブロのハイキャパ4.3、マイクロプロサイトなどなど、見応えはバッチリだったと言えるだろう。

個人的に気になったのは「マイクロプロサイト」だ。東京マルイのオプティカルサイトは価格的にもリーズナブルで良い製品が多い事で知られている。以前はモックアップのみの発表だったが、今回は量産に近いモデルを見る事が出来た。こうした類のダットサイトは軽い反面、精度が低かったり耐久性に難があるなど、あまり良い話を聞かないが、この「マイクロプロサイト」は東京マルイが製作しただけに完成度も高く、この金額でこのクオリティの製品を完成させた技術力の高さに驚かされる。

他にも、リトルアーモリーでおなじみのトミーテックやゴッドハンド、タミヤ、アオシマなどといった注目のメーカーが数多く出展していた。

トイガンメーカーに限らず、東京マルイのようなところはこうした会場で新製品の発表を行なう事が多いため、ユーザーとしてはついつい足を運びたくなってしまう。会場に足を運ぶ事で、いち早く情報を得られるだけでなく、実際に手に取って体感出来るというのも、こうしたショーの特徴でもある。誌面やネットだけでは味わえない雰囲気を堪能するためにも、ぜひ体験してみて欲しい。

速報でも紹介した次世代電動ガンの最新モデル「AK47」。根強い人気を持つモデルだけにヒット間違いナシだ。

トッピング全部載せ状態のSGR-12。総額いくらになるのやら想像もつかないが、これはこれでカッコ良い。

そしてこちらも専用マウントによりマイクロサイトを搭載したUSP。アクセサリーパーツの展示も行なわれている事から考えても、発売はかなり近い。

会場内ではマイクロプロサイトを搭載した状態のM&P 9Lも展示されていた。かなりのローマウント化になるのでオープン感覚で狙える。

次期ガスブローバックモデルのラインナップ。昨年までは全てグレーのモックアップだったが、今年はひとつ製品化された。

電動ブローバックハンドガンの最新モデルは「ハイキャパ4.3」が発表された。コンパクトで扱いやすそうなモデルである。

トールハンマーはこんな立派なハードガンケースに収められる。購入を考えている人は今から億場所を確保しておいた方が良いだろう。

今回のPVでモデルを務めていたMIREIさんとぴっちょによるツーショット。美人さんが2人並ぶと実に絵になります。

発売までカウントダウンとなった「バイオハザード」初の大型モデル「トールハンマー」。詳細についてもかなり具体的になってきた。